

2011年5月31日

インドネシアで電解の生産能力を30%増強

AGC 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、インドネシアを中心としたアジア地域における苛性ソーダ^{（注1）}及び塩素誘導品^{（注2）}の需要拡大に対応するため、同国の電解^{（注3）}設備能力を30%増強します。当社子会社のアサヒマス・ケミカル社に約50億円を投じて生産設備を増設し、2013年第1四半期に生産を開始する予定です。

苛性ソーダは、レーヨンを中心に、石鹼・洗剤、調味料、紙・パルプなどの製造の他、基礎工業薬品として幅広く使用されるアルカリ製品で、経済成長に伴い需要が増加しています。インドネシアの苛性ソーダ需要は、同国の好調な経済を背景に年々拡大しており、2010年度には前年比プラス10%超の市場成長を記録し、年間需要は60万トンに迫ると見込んでいます。^{（注4）}同国は、今後数年に亘りGDP6%超の成長を続けると見られることから、それに伴い苛性ソーダの継続的な需要拡大が期待できます。

AGCは、日本、タイに続き1989年からインドネシアのアサヒマス・ケミカル社において電解生産をスタートし、同社は苛性ソーダ・塩素から塩ビ樹脂までを一貫生産するクロール・アルカリの総合メーカーとして事業を展開しています。現在、同社はインドネシアの苛性ソーダ市場で50%超のシェアを占めていますが、今回の増設により生産能力を30%高めておよそ50万トン/年とし、市場の強いニーズに引き続き応えます。

また、電解設備の増設により苛性ソーダとともに増産される塩素は、二塩化エチレン（EDC）の生産などに活用し、インドネシアを中心にアジア地域の旺盛な塩素誘導品の需要に対応します。

AGCは、経営方針 *Grow Beyond* の主要施策として「第2のグローバルイゼーション」を掲げており、今後も高い成長が期待されるアジア地域での事業を推進し、地域の発展に貢献していきます。

以上

（注1）水酸化ナトリウム（NaOH）の別称

（注2）塩ビ中間原料の二塩化エチレン（EDC）、塩ビモノマー（VCM）、塩ビ樹脂（PVC）等

（注3）苛性ソーダ・塩素を生産する塩水の電気分解 （注4）当社調べ

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子(株) 広報・IR 室長 上田 敏裕

（担当：杉山 TEL：03-3218-5259、E-mail：info-pr@agc.com）

<ご参考>

■アサヒマス・ケミカル社概要

1. 社 名 アサヒマス・ケミカル株式会社
2. 代 表 者 宮崎 淳
3. 本社所在地 インドネシア、ジャカルタ
4. 工場所在地 インドネシア、バンテン州チレゴン
5. 資 本 金 4 2 百万ドル
6. 出資比率 AGC 52.5% 三菱商事 11.5%、
現地パートナー (Rodamas 18%、Ableman Finance 18%)
7. 設 立 1 9 8 6 年
8. 事業内容 苛性ソーダ、EDC、VCM、PVC等化学品の製造販売

【アサヒマス・ケミカル社の外観】



※同社の敷地は約 93 h a であり、今後更なる増設が可能なスペースを有しています。